



2021年1月29日

## ブラジルと南アフリカの新型コロナ感染状況

公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部 上席研究員 森川 央

昨年11月ごろ、新型コロナウイルスの変異株が南アフリカ（以下南ア）とブラジルで相次いで発生した。毒性（致死率）についてはまだ不明であるが、感染力は従来のウイルスよりも高いとされている。そのため、両国で年末から年始にかけて陽性者数が急増している。

南アでは11月末時点で2,897人（1日当たり、以下同じ）だった新規陽性者数は12月末には13,509人へと1カ月で4.66倍になった（図1）。たまりかねた南ア政府は、屋内外での集会を原則として禁止する、飲食店の営業も午後8時までに制限する、アルコール類の販売も禁止する、などのロックダウンを発表した（12月28日）。

足元で新規陽性者は減少し始めているが、まだ第1波のピーク付近にとどまっている。そして注意すべき点はロックダウンを導入しているにもかかわらず、1人の感染者から何人に感染が広がるかを示す実効再生産数（ $R_t$ ）が1を上回っていることである（図2）。変異株の感染力は強く、更に厳しいロックダウンが必要になる可能性がある。

図1 新規陽性者数（5日移動平均）

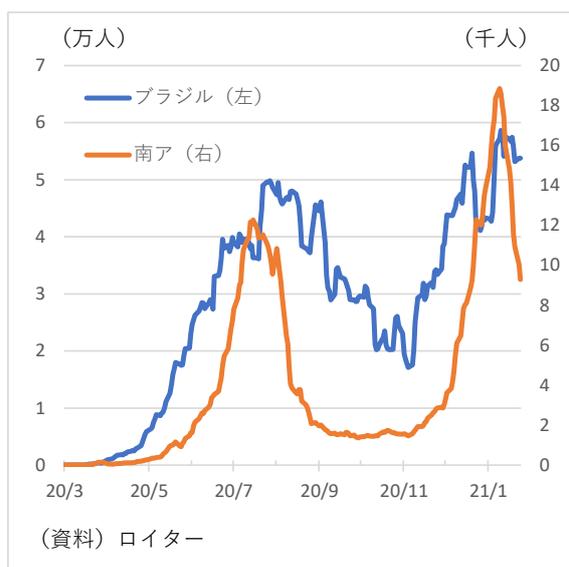
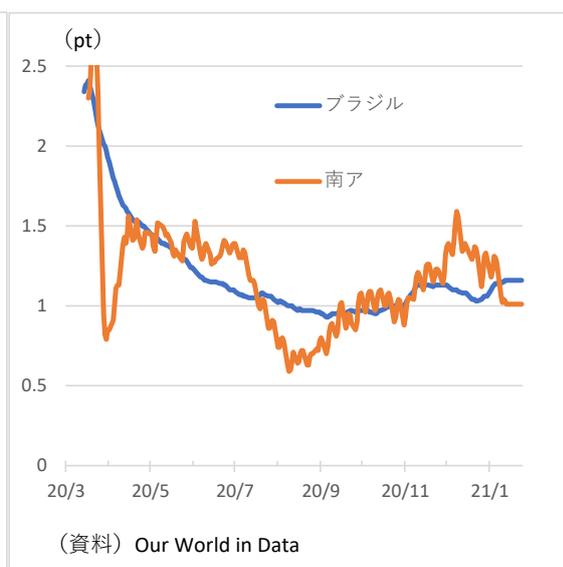


図2 実効再生産数 ( $R_t$ )



一方、ブラジルでも 2020 年 11 月から再び新規陽性者が増加してきている。ブラジルは全国的なロックダウンを実施していないため、年明け後も陽性者数が高止まりしている（53,767 人、1 月 26 日時点）。

ブラジルでは「P. 1」という変異株が拡大している。変異株が発見されたアマゾナス州マナウスで陽性者に占める変異株のシェアは 12 月には 52.2%だったが、1 月には 85.4%に達したと推計されている。そして、ブラジルのアドルフォ・ルッツ研究所によると、サンパウロ州でも 3 人の変異株陽性者が確認された（1 月 26 日）。マナウス以外で変異株陽性が確認されたのは初めてである。今後、大都市圏でも変異株が広がり、全国的な流行に拡大していく恐れがある。

最新の IMF 世界経済見通しによると、2021 年の実質成長率は南ア 3.3%、ブラジル 3.6%と予想されている。だがワクチン接種はどちらの国でも遅れているうえ、そもそも変異株には有効性が低い可能性もある。変異株は両国の景気腰折れリスクを増大させている。

以 上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくごお願い申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2021 Institute for International Monetary Affairs（公益財団法人 国際通貨研究所）

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話：03-3510-0882（代）

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>